

令和6年度まちづくり懇談会 宮川地区

日時 令和6年10月3日(木)
午後7時00分～午後8時30分
場所 宮川地区コミュニティセンター

小学校建替・改修等について

意見要旨	説明・回答要旨
宮川小学校は2025年で50年の施設となるが、昔の計画なら50年ごとに建て替えだと聞いていた。しかし、リノベーションの方向性や合併という話がでてきている。今後、宮川小学校についての具体的な方向性をお聞きたい。	(市長) 来年度の建て替え、リノベーションは計画しておらず、そういった引き継ぎも無い。ただ宮川小学校を何とかしなければいけないと考えている。問題の1つは立地で、現在地はレッドゾーンにかかっており、そのまま建て替えることは難しいと考えている。また、永明小中学校を建てている最中であり、その前にリサイクルセンターも建てた。行政の反省点だと思っているが、計画はそれぞれの部署で作っていて、横の連携がとれておらず大型事業が一気に計画されていた。引き継いだ者としてやらなければならないが、非常に無理な事業計画であると正直思っている。今後このような事が無いように今、市民の皆さんに何を残すべきか、何を建て直すのか、何と何を一緒にするのか投げかけをさせていただいている。そこがはっきりすると、財政運営上無理のない平準化した計画が作れる。今の状況を包み隠さず説明して、きちんとした形に修正していかないと、茅野市の将来を作っていけるお約束ができないと思っている。10年ぐらいかけて収支均衡予算にできるだけ近づけていく必要がある。 (学校教育課長) 永明小中学校が建て替えられたら、宮川小学校が一番古い校舎になる。現在の宮川小学校の児童数が668人だが、6年後の令和12年に506名になる見込み。これは移住者はカウントしていないが、生まれたお子さんでみると、約160人のマイナスとなり、茅野市全体では680人の児童が減るという状況。1町8ヵ村からできあがった市だが、その時から形態を崩すことなく、今後も学校がその地にある必要があるかどうか、これから時間をかけて皆さんとお話をさせていただきたいと思っている。
今、学校建て替えの話が出たが、レッドゾーンに引っかかるため、今の場所でのフルリノベーションや耐震改修は、基本的に考えてないということか。	(市長) 今の場所でのフルリノベーションや新規建て替えは考えづらいが、トイレの改修などご要望いただいている小規模のものについては、適宜実施していきたい。

学校にあるもの、施設はすべて学びに必要なものだと考えている。フルリノベーションや建て替えせずともトイレの改修工事は是非お願いしたい。

(市長)

宮川小学校については、学校建設基金を作ったらどうかと考えている。永明小中学校の場合は無かったが、国交省の街中を再整備する補助金を活用することができた。しかし、他の小学校にそれは使えない。今、文科省は、統合せず建て替える場合は、補助金が出ない。人口減少がわかっているので、統合する場合に補助金がもらえる形になっている。そのことも含めて検討せざるを得ない状況にある。

(教育長)

ちょうど6年前にリノベーションの説明をしたことがあったが、その時と考え方が変わってきた。当時は現地で全面リノベーションを考えていたが、危険地帯ということで今後の体制をどう作っていくかを検討している。併せて学校の中の教育はをさらに充実させていきたい。

4月1日に永明小中学校が開校して、新聞報道等で施設を拝見したが、施設は非常に立派なものであり茅野市には分不相応な学校ができたとは私は断言する。対して宮川小学校は、平成19年から20年度にかけて、耐震工事が行われた。リノベーション前に耐震工事が進んでしまうということは、建て替えないということを宣言したようなものである。せめてトイレだけは改修して欲しいと市長さんにお便りを差し上げたところ、令和6年には実施するとご返いただいた。しかし、なかなかそのような気配がないので、昨年11月に宮川地区民生委員会の定例会でこのことについて話をしたところ、12月1日に、市長より「宮川小学校のトイレの改修につきましては、令和2年7月に回答させていただきましたように、施設全体の改修イノベーションの中で、トイレも改修をしていく予定をしていましたが、令和6年度からの実施は難しい状況です。生徒数が減少する中、これからの教育の場を検討するとともに、小学校の再編を検討することといたしました。学校の通学区の再編、学校の整備、改修について検討を行う予定で、その結果により、宮川小学校の整備や改修の方向性を出していくようになると考えています。なお、現状を軽減する対策として清掃の専門業者に依頼し、床等の汚れの除去、便器の垢取り清掃を随時実施しております。」とご返事をいただいた。宮川小学校は、災害時の指定避難所になっているということも考えれば、トイレの改修だけはやっていただきたい。

(市長)

トイレの改修については、すぐに対応したかったが、時間がかかってしまい申し訳ない。災害時のトイレについては、水洗トイレは使えなくなってしまうのではないかと想定しているので、別の考え方が必要となる。学区区については、教育長からする。

(教育長)

おっしゃるとおり、市内の学区割には距離的には指定校よりも近い学校があるご家庭が一定数いることは承知している。冒頭、市長が申し上げたように、茅野市の学校のあり方を検討していく中で、市全体の通学区のあり方については、必ず検討課題となってくる。市民の皆さんと協議していく中で検討を進めていきたい。

もう1点、茅野市内の保育園はどこでも登園することが可能だが、小学校は学区が決められている。新井と高部は永明小中学校の方が距離的には近く、施設のことも考えればよりそう思う保護者が多いのではないかな。	
児童が学校のトイレを使用できず、家までがまんして帰ってきたという事例を耳にした。臭いの原因は配管かと思うので、考慮しながら改修を進めてほしい。	(市長) おっしゃるとおり臭いの原因は宮川小学校が建設された当時の特有の配管の構造にあり、配管ごと修繕を行うには大規模な工事が必要なため、今後の方向性が決まるまで、何とか対処していきたい。
トイレの話で、先ほど予算という話があったが、年2回大規模な掃除を行っても、半年も経たずに臭いが戻ってしまう。芳香剤等である程度は臭いでごまかすのも1つ。予算的には、そんなにかからないと思う。何年後かには考えると言われても、子どもたちは6年経てば卒業する。1日1日が臭いとの戦いになっているので、来年度あるいはまだ予算的に残っていれば、対処して子どもたちに納得していただければ。	(市長) ご心配をおかけして申し訳ない。今試算もしているので、財政課の方としっかりと話をしながら、できるだけ早く、来年には方向性が出せるように考える。確約はできないが私の方からもしっかりと申し伝えたいと思う。

小学校の再編について

意見要旨	説明・回答要旨
通学区の見直しや建て替え、リノベーションについては学校の再編ありきで話されていると思う。今後、学校の再編についてどのような形で、地元の声を聞いていくのか、委員会等を設置するのかどうか、そういった意見を反映していく計画がどのようにあるかお聞きしたい。	(市長) 再編ありきではないということはまず申し上げておきたい。 (学校教育課長) 進め方については、学校ごとに地域対話を行っていく。今後どのような集めた方がよいか、zoom等オンラインを利用するなどの方法を含めて検討し、地域の声をお伺いする中で、地区の総意という形でまとめていき、最終的に市全体としての考え方をまとめていく方向を考えている。
どのぐらいの期間を目安にして行う予定か。早急にやらないと今後対応が遅れるのではないかな。	(学校教育課長) 地区によって様々である。宮川の場合、どんどん話が進んでいけば、いろんな形になってくると思っている。それは全地区で全く同じタイミングを待たなければいけないかというとはそうではなく、決まったところからどんどん進めていくという考えもあると思う。

今のお話を聞いてると、地区でまとめないと反映されないということか。	(学校教育課長) 例えば、これからの学校の再編だけではなく地域づくりに関しても、皆さんに関わってもらわないといけない。興味のある方だけ集まっていたりとか、関係者だけ集まるのではなく、1人でも多くの方に集まっていたら議論をしていく必要があると考えている。決まりきった役員の方だけで、宮川地区のことを考えていくのではなく、より多くの方に集まっていたら地域、地区としての考えをまとめていきたい。
宮川地区で、協議会何なりを作らないと話をしてもらえないということか。	(学校教育課長) 例えば、運営協議会がその役割かとも思うし、宮川地区の場合は区長会なのかわからないが、そういう会が必要だと思う。
今までそんな話は一度も聞いていないが、どうしてそんな話が急に出てくるのか。	(学校教育課長) そうしないと話に応じないということではなく、宮川地区の皆さんとキャッチボールをさせてもらえればと思う。こうでなければ宮川地区の意見を聞きませんということを言っているわけではない。 (市長) 我々は、二段階で考えている。今の段階は茅野市の小学生の教育環境をどうあるべきかということを含めて考え、各地区でどういうご意見があるかをお聞きしたい。各地区の中でも、保護者の皆さん、子どもたち、地域の皆さん、それぞれの考えが違ったりする。その中でどうしていくかということは、我々の今後の運営にも参考になる。ただ、その議論をする中で、とにかくうちの地域に学校を残せ、というだけの議論に終始するのであれば、それは全く無意味なので、どこかのタイミングで止めてもいいとは思っている。これからの子どもの数の動態はわかっていて、ある学校では、10年のうちには、どこどこと一緒に話をするしなければいけないタイミングが来る。その前に、みんなで話をしたいと思って今回早めにお話を出させていただいている。なので、議論をこれ以上してもあんまり意味がないと判断した時は、市である程度想定できる範囲の中で、着々と準備を整え具体的な話を出さざるを得ない。そのうえで、全部を残すとなった時は考えるが、子どもが減っていけば、複式学級という形も候補となり、県からもそう言われると思う。各地区の想いはみんなそれぞれで、お気持ちもよくわかるが、本当に9校全部を維持していくことが子どもたちにとって幸せなのかということを、大人の責任として考えなければいけない。

小中一貫校という言葉が必ず出てくるが、茅野市は分離型の小中一貫なので、厳密に言うとは小中一貫ではない。呼び方や名称が引っかかる。	(教育長) 文部科学省では、施設分離型でも学校経営や教育内容の統一を図ることにより、小中一貫校としている。もちろん施設一体型の小中一貫校もある。平成28年か29年に小中一貫校という方向性を打ち出してやってきているが、今までの取組の中で成果もあるし、課題も見えてきている。1年ぐらいかかると思うが、今回の縄文ビーナスプランの中で、新たな小中一貫校のあり方や目標を考えていく。
---	--

こども館について

意見要旨	説明・回答要旨
こども館が中央公民館の中にあるが、学校の中に設置できないのか。他の地区は学校の近くにあるが、宮川だけ距離があり、非常に使いにくいという話も聞いている。また、こども館が実際には運営協議会の部会みたいな感じになっている。将来的にも、学校の中にあってもよいのでは。	(市長) こども館は今から20年ほど前に設置されたと思うが、地域の皆さんが運営する屋根のある公園という考え方で設置をされたと記憶している。地域の方がそこに来て、子どもたちの面倒を見て、そこで子どもたちが遊ぶという基本的な構想の中で、各地区に設置してきた。最近はなかなかそういった形になっていないところもあり、使ってくれているところと、全く使われていないところと、正直両方ある。そして、お母さんのお迎えを待つことが主な使用目的のように見受けられる。茅野市は単独事業でこれを始めたが、似ているが違う形のもので国が補助金を出してくれるというものがあつた。それにシフトして行くことも検討したが、当時想いを持って設置した方々がいて、なかなか切り換えができていないことも事実としてある。 (こども部長) こども館は、各地区の実情によって設置が異なっている。他地区だと、地区コミュニティセンターの中にこども館が併設されている。他地区は地区コミュニティセンターが学校の近くにあるところが多いが、宮川地区は中央公民館の隣に設置されているので、学校から離れてしまっており、これも地区の実情に応じた形である。こども館運営委員会の関係は、平成25年頃、運営協議会の子育て部会とこども館運営委員会が一緒になると宮川地区では決まった。他地区では別々の組織になっているので、宮川地区だけがそのような形で運用している。 また、国の制度として、学童クラブというお子さんをお預かりする施設ができたが、茅野市にはこども館がすでにあつたので、そのまま市独自の施設としてこども館を運営している。学校の中にこども館を作ることは、現時点として考えていないのでご理解いただきたい。
運営協議会のこども部会と学校運営協議会という中で、やっぱり学校運営協議会は、地域の方々に支援体制を作ってもらうことが一番重要。運営協議会のこども部会に沢山の人が関わっていることで、そういう人たちが宮川小学校の支援として、あるいは応援部隊として動いてくれたら良いと思う。	(市長) ありがとうございます。

消防団再編について

意見要旨	説明・回答要旨
今、消防団の編成をやっている宮川地区の区長会も何回か議論をしている。その区長会の取りまとめを宮川地区の分団長がやっている。消防団の上部組織は市。区長会の上部組織も市。そこを横断して、分団長が区長をまとめるというのは、権限もないし無理な話。案の定、前回の会議では、各地区いろいろな状況があり、まとまらない状況になっている。来月からきっちり市で、区長会をまとめて音頭を取っていただきたい。	(市長) 消防の再編については、就任前から取り組んでいるものなので様子を見ていた。しかし、なかなか進まないの、団長にお聞きして、消防団に助言等をさせてもらっている。地区によって状況が色々違うが、宮川分団については、非常に分団長にご苦勞をかけていると伺ったので、私が直接行ってお話をしても構わないので、どのような進め方がいいのか協議をしていただければと思う。
今月もあるので是非市が音頭をとってほしい。難しいことではない。10月の区長会からお願いします。分団長が区長会へ来て、各区長をまとめようとするのはおかしい。市長にやれとは言わないが、市には消防課があるので、やるべき方がやるべきことをやっていただきたい。	(消防課長) 消防団の再編は、令和5年から計画が始まり、各地区と分団でどこの地区が一緒になればいいかお話をさせていただき、そのバックアップは毎月分団長会議の後に開催している総合計画の策定委員会で行っている。問題点等あれば、策定委員会の中で解決しながら、分団の方で話を進めているところ。しかし、地区の内情は我々ではわからないので、その前段階の説明はしたが、本格的に統合してやっていくという話は分団の方をお願いをしている状況。
案を出しても市がちゃんとやってくれないと困る。消防団の上部組織なのだから、常に誰かが同席してほしい。区長会をまとめるのは分団長の仕事ではない。区長会をまとめるのは市なので、その人が音頭を取ってもらわないと分団長がかわいそうである。	(消防課長) 要請があれば毎月出かけて行き、説明を行っている。 (市長) 庁内で調整して次の会議から誰か行くような形を取ってもらいたい。とりあえず今日のところはこんなお答えしかできなくて申し訳ない。

行財政改革について

意見要旨	説明・回答要旨
来年度から市の施設の公共料金が、8割から倍くらいになるという噂が流れている。このぐらいの経費を節約して、今後の茅野市はこうなるというような、具体的な話はないのか。	(市長) 先ほどの説明の中で14億円を削減すれば収支均衡予算になるという話をさせていただいた。その14億円を1年や2年で減らすことは非常に難しいので、10年ぐらいかけて少しずつ減らしていったらいい。収支均衡予算にしていけないといけない。そういった中で、宮川小学校を建て替えていくことになる。これから未来に向けて一番大事なことは、子育てや福祉、医療になってくる。それを守るためには、どこかを我慢してもらわないといけないのでお願いをしている。スケートセンターはこれから色々な話をしていけないといけないが、例えばプールや温泉は、民営化の道を今模索している。我々は何でも無くしたい訳ではない。市が何でもやるのではなく、民営化によってそれを残すということも、実は一方で模索をしている。これは、まだ確定していないので発表できる段階ではない。使用料については、今までの算出方法を少し変えて、建設費を含めるようにした。 (財政課長) 施設の使用料は、今ご指摘いただいたとおり見直しをしているところ。必ずしも値上げありきで算定をしているものではない。今までと異なる方法で、未来にわたり茅野市の公共施設を維持していくための経費も乗せながら算定をしている。ただ、その算定をしたものをそのまま皆さんにお示しし、決定するわけではなく、様々な関係団体或いは市民の皆さんと協議し、利用しやすい値段なのかどうかを含め、作り上げている最中である。 (副市長) 茅野市は、昭和30年に茅野町になって昭和33年から市制が施行されたが、茅野市のこれまでの施策は、地域の中全体で考えるというよりも合併前の1町8ヵ村に同じように均等に同じサービス、同じ公共施設を設けるといって形ですと展開してきた。なので、他の市町村に比べたら公共施設の数が多い。あの地区や宮川地区のように1万人以上いる地区もあれば、2000人ぐらいの地区もあるが、いずれも同じ仕組みでやってきている。これはやはり違うのではないかなと思う。各地区に均等にするのはなく茅野市全体の中で考えて、施設というもののあり方を考えなければいけない。また、茅野市で公共施設をフルセットでやるのではなく、6市町村の生活圏は一緒なので、各市町村で使えるものは使いながら整理することによって公共のシステムをもう1回見直していくことが大事。

	そういった経費は、将来の子どもたちのための投資に回っていく。今このまま何もやらなければ、本当に半分になってしまった子どもたちが重荷を背負っていかねければならなくなるので、今一生懸命行財政改革を行っているところ。それはただ減らすだけではなく、場合によっては行政がやらなくても民間の力で運営できるものについては運営していただくなどして、皆さんの税金を有効に使っていききたい。
市で公共施設の料金を検討中にもかかわらず、来年は倍くらいまで上がるのではという噂が流れている。誰かがそういう話をしていると思う。まだ決まってないことが、もう市民の中で話されているということがないようにしていただきたい。	(市長) いろんな話が市内を駆けめぐっていることは私も承知している。市から色々と打ち出しているので、皆さん不安な気持ちになっている。いろんなお話しをしたことが、そのまま市内に流れていってしまっていると思う。我々が流している訳ではないのでご理解いただきたい。